

SPARC Japan 第 4 期の事業計画について（案）

1. 第 4 期の基本方針

「国際連携の下でのオープンアクセスの推進、学術情報流通の促進および情報発信力の強化」に取り組むことを基本方針とする。第 4 期は、大学図書館と研究者の連携を促進するとともに、オープンアクセスの課題を把握し、大学等のとるべき対応について検討し、これに関するプロジェクトを推進する。

2. 第 4 期事業計画(案)

(1) 国際的な OA イニシアティブとの協調

- ・第 3 期に引き続き、SPARC, SPARC Europe との連携を強化するとともに、個別プロジェクトにおいても SCOAP³, arXiv.org, ORCID, COAR 等の国際イニシアティブと協調しつつ国際学術情報流通基盤整備を進める。

(2) オープンアクセスの課題への対応と体制整備

- ・大学図書館と国立情報学研究所の間の連携協力推進会議と協力しつつ、国際学術情報流通基盤整備を推進する。
- ・世界的に変化の著しいビジネス環境の中で、学術情報流通の変化に学術コミュニティが適切に対応するために、大学図書館・研究者および国立情報学研究所が連携して、オープンアクセスの課題を把握し、大学等のとるべき対応について検討する。オープンアクセス誌への対応や機関リポジトリの今後を検討する。
- ・オープンアクセスの課題について検討するために、アドボカシー活動を継続する。国内外の動向の情報収集活動を継続し、SPARC Japan セミナー等で国内に還元する。この活動には、大学図書館、研究者、学会等のコミュニティが主体的に参加できるための場を提供するとともに、速報性を高めた広報も行う。

(3) オープンアクセスに関する基礎的情報の把握

- ・学協会誌に関する定量的・基礎的情報の把握・評価のため、第 3 期まで実施してきた「日本の学術情報発信状況の調査」を引き続き、継続する。
- ・オープンアクセス誌および機関リポジトリの利用実態や投稿実態について、動向調査を行い、基礎的情報の把握に努める。

3. 平成 25 年度の具体的なプロジェクト（案）

上記の事業計画のもと、平成 25 年度は次のプロジェクトを実施する。

(1) SPARC Japan セミナー 2. (1) (2) への対応

【別紙 4-2】

アドボカシー活動として、SPARC Japan セミナーを 5 回実施する。各回に企画担当者を置き、企画・実施を行う。ニュースレターについては速報性を重視し、セミナー開催に合わせて企画担当者が A4 裏表程度のチラシを作成し、ウェブ配信する。

なお、2013 第 1 回は SPARC から事務局長を招聘し、SPARC, SPARC Europe との連携を強化する。

(2) 海外動向調査 **2. (1) (3) への対応**

2013 年に予定されている下記の国際会議に参加し、情報収集を行う。

- ・ OR2013 (The 8th Annual International Conference on Open Repositories)
2013/7/8-12 於 The University of Prince Edward Island,
- ・ ETD 2013 (The 16th International Symposium on Electronic Theses and Dissertations)
2013/9/23-26 於香港
- ・ ORCID 理事会 2013/5/22-23, 10/29-30, 2014/1 頃の 3 回を予定

(3) SCOAP³ 支援 **2. (1) (2) への対応**

連携協力推進会議の下タスクフォースと連携しつつ、SCOAP³ の日本のとりまとめを行う。
現時点での予定

2013 年 4 月	引き続き、拠出額と削減額の調整のための作業 (Reconciliation)
2013 年 4～6 月	CERN とパートナー (参加機関) との覚書 (Memorandum of Understanding: MoU) 締結 CERN と出版社との契約
2013 年 7 月～	CERN から参加機関にインボイス発送
2014 年 1 月～	SCOAP ³ 対象誌の OA 提供開始

(4) arXiv.org 支援 **2. (1) (2) への対応**

arXiv.org の 2013～2017 年会員制モデルへの参加の意向および連絡先を確認し、arXiv.org の事務局と日本の参加機関との連絡調整を継続する。

(5) オープンアクセス支援のパイロットプロジェクトの検討 **2. (2) への対応** 【別紙 4-3】

オープンアクセス誌および機関リポジトリの利用実態や投稿実態について、研究者の実態調査や海外動向調査を行い、我が国における APC(Article Processing Charge)助成プロジェクトの可能性について検討する。

(6) 日本の学術誌の基礎的情報の把握 **3. (3) への対応**

第 3 期までで学協会誌の発信力を定量的に把握する調査研究は進展した。定期的な調査により、引き続き基礎的情報の把握に努める。

(7) SPARC Japan 年報の発行 **3. (1) (3) への対応**

SPARC Japan に関するニュースはウェブで広報し、紙媒体による従来の形式のニュースレターは発行しない。その代替として、活動記録のために報告書を発行する。各回のセミナーの記録および基礎情報のまとめ等を整理し、年 1 回の形で発行する。